

選挙

ります。なぜでしょう。若い人も政治に興味を持ち、投票に行く人を増やすためには、どうしたらいいと思いますか。

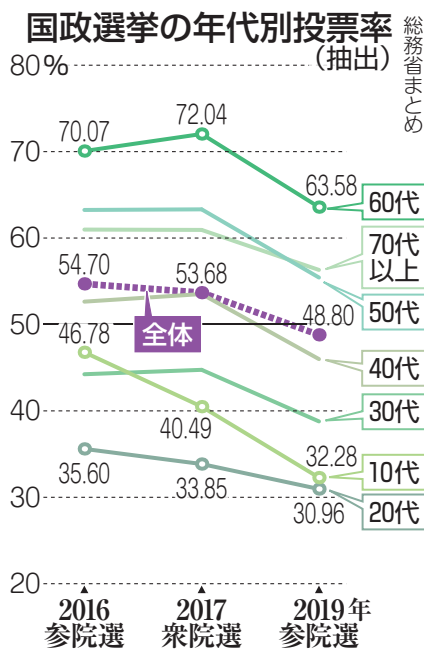
(馬徳名老海)

10月31日は国の政治を担う衆議院議員の選挙でしたね。5年前からどの選挙でも18歳から投票できるようになりましたが、10~20代の投票率は中高年の人に比べて低い傾向にあ

総務省によると、今回の衆院選の全体の投票率は55・93%。十代の速報値では、十八歳が51・14%、十九歳は35・04%にとどまったが、いずれも四年前の前回よりは高くなった。若者の投票率アップに取り組むNPO法人ドットジエイピー（東京）学生代表の細谷終太さん（三）は「新型コロナウイルス禍で、政治判断が暮らしに結び付いていると感じる人が増えたからでは」と指摘。緊急事態宣言や学校の休校、東京五輪の開催などの影響を挙げた。

ただ、選挙で投票できる選挙権年齢が二十歳以上から「十八歳以上」に引き下げられた後の国政選挙の投票率を見ると、十代

◆ 若い政治家を増やす



ネット活用に期待

◆ 若者の投票率アップ

と二十代の低さが目立つ。スマホなどで投票できる仕組み「ネット投票」を望む声もあるが、他人になりすまして投票するなどの不正やトラブルも心配され、まだ実現しそえない。若者が選挙に関心を持ちにくい理由を、細谷さんは「投票してメリットを受けないイメージが持てないから」と分析。ほとんどの若

者は政治で生活が良くなったと感じた経験がないため、投票に行かない人が多いという。若者に政治参加を促す団体「NO-YOUTH NO-JAPAN」代表理事で慶応大学大学院生の能條桃子さん（三）は、若者の投票率が80%を超えるデンマークに留学した際、「みんな楽しそうに政治の話をしていた

社会変えていける

のが衝撃的だった」と振り返る。選挙の期間中には、小学校の高学年が宿題で候補者に話を聞きに行き、大学では何度も討論会が開かれた。「みんなが政治家と話したことがある環境。だからこそ投票に行くのが当たり前だと感じた」

日本では若い政治家も少ない。衆議議員は二十五歳から立候補できるが、今回、二十代の当選者は一人だけだった。「若い人でも社会を変えていけると知ってほしい」と話すのは、二十七歳で愛知県岡崎市議会議員になった三塩菜摘さん（三）。子どもの頃に不登校を経験し、教育に携わる仕事をすることで「社会の仕組みを変えるのは政治」と考えるようになったという。

今は会員制交流サイト（SNS）などで誰でも意見を発信でき、同じ考えを持つ人とつながりやすい。今回の選挙前には、小栗旬さんら十四人の俳優やミュ

ージシャンらが投票を呼び掛ける動画を自主制作して配信し、注目を集めた。三塩さんは「若い人の声も大きなムーブメントになりやすい時代」と期待する。

部「学ぶ」係＝ファクス 052(222)5284、メール seikatu@chunichi.co.jp＝へ。



QRコードから、ワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。18日締め切り。

皆さんの意見を送ってください

将来、選挙に行きますか？ 投票する人をどう選びますか？ 皆さんの意見を送ってください。紙面で紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼントします。応募は〒460 8511 中日新聞（東京新聞）生活